

## 授業概要

今日「西洋」と呼ばれる文明が、歴史的にどのようにして立ち上がってきたかを、古代地中海世界の解体からヨーロッパ中世社会成立までの過程を中心に講義する。西洋は、近代世界を工業技術や政治経済制度ばかりではなく、文芸や諸科学などでも常にリードしてきた。その基盤は、すでに中世盛期の「グレゴリウス改革」期に形作られていた。そのことを、古代地中海世界の東西に分裂・ゲルマン民族大移動・イスラームの西地中海進出・カロリング帝国の形成・そして「教会＝国家」体制の否定という、古代末期以降の具体的な歴史過程を踏まえながら講じる。

## 授業計画

第 1 回	講義概要：「西洋」とはなにか 授業の進め方について
第 2 回	古代地中海世界①：ローマの二つの顔 ラテン語文化圏とギリシア語文化圏
第 3 回	古代地中海世界②：西方ラテン語文化圏の没落と東方ギリシア語文化圏の繁栄
第 4 回	古代地中海世界③：キリスト教の成長とギリシア語文化圏
第 5 回	「ヨーロッパ世界」の起源①：ローマニストの考え 「末期古代」の設定
第 6 回	「ヨーロッパ世界」の起源②：ゲルマニストの考え 「ゲルマン民族移動」の評価
第 7 回	「ヨーロッパ世界」の起源③：アンリ・ピレンヌの考え イスラーム侵攻の評価
第 8 回	「ヨーロッパ世界」の起源④：レオポール・ジェニコの解釈
第 9 回	「ヨーロッパ世界」の形成①：カロリング家とローマ教会
第 10 回	「ヨーロッパ世界」の形成②：ピピンとボニファティウス 「カロリング・クーデタ」
第 11 回	「ヨーロッパ世界」の形成③：カール大帝の「西ローマ皇帝」戴冠
第 12 回	「ヨーロッパ世界」の確立①：カロリング帝国の統治体制 世俗と教会
第 13 回	「ヨーロッパ世界」の確立②：ノルマン侵攻と帝国の分裂
第 14 回	「ヨーロッパ世界」の確立③：「教権制の時代」とグレゴリウス改革
第 15 回	「ヨーロッパ世界」の確立④：世俗国家の自立と「諸国家並存体制」近代への展望
第 16 回	筆記試験実施 論述式

## 到達目標

「西洋」と呼ばれる文明の特徴と、その形成過程とを自分の言葉で説明できること。現代社会において「西洋」的な価値が果たしている意義・役割とその課題について、自分なりに問題を提起できること。それらを通して国際文化理解の促進に貢献する意思と能力とを培うこと。

## 履修上の注意

高校「世界史」や「地理」の内容をよく学習し直しておくこと。また「西洋史学入門」をあわせて受講することを推奨する。理解の深化のため重要文献を題材としたレポートの作成（必須）が求められる。また知識定着度確認のため小テストを合わせて5回実施し、平常点の一部を構成するので必ず受験すること。

## 予習・復習

毎回講義終了時に次回講義のキーワードを提示するので、必ずそれらについて各自十分に調査し、ノートをとっておくこと。理解が不十分な点については、授業時間内に質問コーナーを設けているので、質問してほしい。質問は講義時間外でも受け付けるので、遠慮なく研究室を訪問してほしい。

## 評価方法

定期試験、小テスト、レポートの成績を総合して評価する。配分割合は、定期試験 60%、小テスト 20%、レポート 20%とする。

## テキスト

教科書は特に用いない。参考文献については講義内で随時紹介する。